

あとがき

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部附属静岡小学校 公開日: 2024-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 健介 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000634

あ と が き

我が国が目指すべき未来社会としてSociety5.0が提唱されて久しくなります。言われ始めたころは「そうは言っても…」と実感もなく、まだ先のことと心のどこかで高を括っている自分がいましたが、ついに生成 AI が普及し始め、「今後十数年で今の仕事の 49%がなくなる」等と話題を耳にするようになり、急激な社会の構造変化を実感する毎日で焦りすら感じるようになっていきます。

これからの世の中を生きていく子どもたちにどのような力をつけたらよいのか。そのために教師はどのような授業改善をしたらよいのか。その答えが「主体的・対話的で深い学びの実現」であることは言うまでもありません。

1クラス35人の子どもがいて、「見方」や「考え方」を発揮したその子の学びも35通りそれぞれ違います。本校では、教師は自らに厳しく目の前の子どもと真摯に向き合い、自分と対象を結びつけながら学ぶその子を支えていくことで、子どもという存在のもつ可能性や在るべき教育の姿を追求しようとしています。本校で日々営まれているこうした取り組みは、まさに「主体的・対話的で深い学びの実現」であると私は信じています。

本校の『その子らしく学ぶ』研究は、この1月より、早いもので3年目に入りました。その子らしい学びの実現は、私たち教師にかかっています。自らに厳しく目の前の子どもと真摯に向き合った、これまでの歩みをまとめた本紀要ですが、皆様方にご一読いただき、ぜひ、忌憚のないご批正とご教示を賜ることで、これからの本校研究の指針にさせていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

終わりにあたり、本研究を進めるにあたりまして温かいご指導、ご助言いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和6年3月

静岡大学教育学部附属静岡小学校
教 頭 鈴 木 健 介